

しんたに洋一 後援会 会報

討議資料

6月1日(木曜日)

発行 しんたに洋一後援会
発行責任 後援会会長
家子和男
〒028-1115
上閉伊郡大槌町上町14番28
号テナント3
電話 0193-27-8018
mail
info@hyotanjima-tomaya.
jp

しんたに洋一後援会のお知らせ
しんたに洋一後援会事務所は、新たに「ふじまる内科医院」の隣にある「家子不動産事務所」の隣に六月十日に開設致します。お近くにお出での際は、気軽にお立ち寄り下さり大所高所からご意見ご指導を賜りますようお願い致します。お立ち下り大所高所からご意見ご指導を賜りますようお願い致します。



鎮魂の森 8年かけても未完成



企業・大学・町の連携協定 産業が低迷し、空き家が目立ち活気が失われた町の再生への緊急提案と実行

現在の大槌町は、行政の不祥事が続き、その対応に追われ町本来の行財政運営が停滞してしま

市町村間競争に遅れ

このままだと市町村間競争に立ち遅れてしまい益々、空き家だらけのまちにな

ってしまいます。

まちづくりは、「なりわい」が重要です。特に、行政に求められている基本的な取り組みは、家族が不安なく暮らせるように、また企業団体等へは、経営と雇用を安定させるイノベーション政策が必要です。

経験に基づく提案

新谷氏は、九年間に及ぶ米国駐在を経験されて経験豊富な方です。

これまで得た国内外の企業や大学など産学官の人脈を活かしたオープンイノベーションの考えにより、大槌町の再生

長寿社会や子育てにも精通

また新谷氏は、人口減少と長寿社会の中で、安心して活力ある高齢社会の実現に向けた産学官連携活動に参加し、課題解

を提案しています。この政策提案により、多くの関係人口を増加させ、若者の雇用が生み出され町の再生と過疎化に歯止めがかかりました。今こそ、町民の皆さんと一体となつて、この町の活性化に取り組みたいと考えています。

決策の実現を目指す領域アドバイザーも経験されています。もちろん、若い子育て世代にも生きがいのある社会を実現するため、海外での教育経験をもち、有益な成果を生み出されるよう取り組み強い決意です。今こそ「おおつち」を活気と夢のある町の実現に向けて、これまでの知識、経験、人脈、行動力を活かしたまちづくりを進める推進役が必要です。価値ある持続的な社会を創っていきませんか。

不祥事続き信用失墜

たび重なる不祥事のマスコミ報道に「また大槌町か」と、冷やかされ恥ずかしい思いをしました。一度、地についた信頼の回復には、すぐには取り戻せません。長い年月が必要となります。信用失墜させた責任は大きいものがあります。更に、これらの不祥事究明にかかる第三者委員会に審査して貰う為にかかる税金で賄われていきます。未だ原因究明が続いており、本来、行わなければならぬ問題や課題が山積しています。



オープンイノベーションとは
製品開発や技術改革、研究開発や組織改革などにおいて、自社以外の組織や機関などが持つ知識や技術を取り込んで自前主義からの脱却を図ること。一例として、産学官連携、異業種交流、大企業とベンチャー企業による共同研究などが挙げられます。

ひょっこりひょうたん島の主題歌の精神による町を再生



民間の力でこの町を変えよう

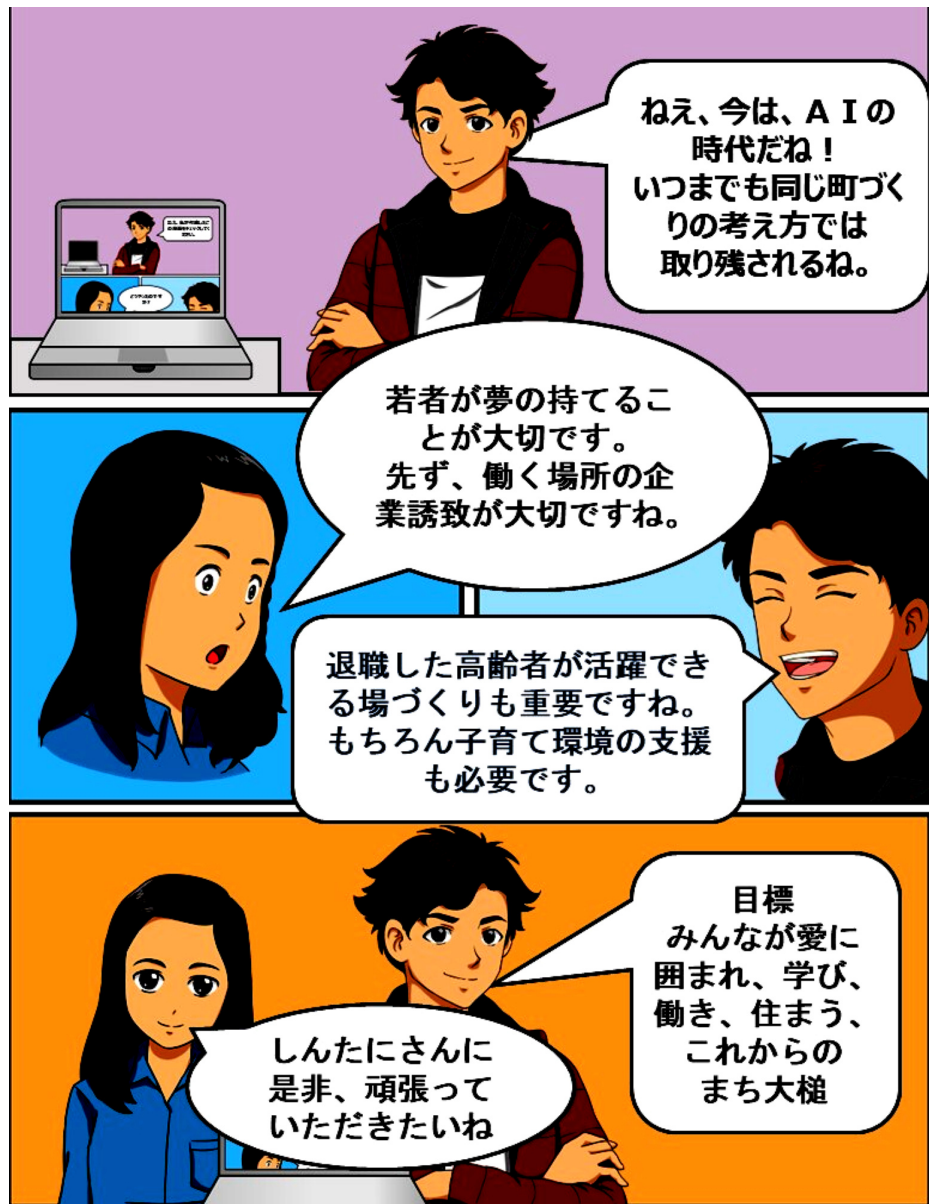
高速道路を活かした企業誘致

地方創生サイクル 大槌Version



オープンイノベーションにより、多くの国内外の企業や大学が大槌町と連携し、賑わいのある新しいまちづくりを進め、まちを再生することが重要です。

町づくりの基本姿勢
住民が主役
 行政運営の基本は、住民の意思に基づいた運営を行うことが大切です。
 住民のご意見は町づくりには大切です。
住民の生命財産
 行政は、住民の生命財産を守ることが重要です。災害は、忘れたころに來る、「備えあれば憂いなし」です。常に危機意識を忘れてはなりません。



子育て支援は、国の基本施策と併せ更に充実が必要です。

新谷洋一氏のプロフィール

- 1952年 10月21日生まれ 東京都出身
- 1975年 東京大学工学部卒業 1977大学院修士1997年工学博士
- 1977年 日立製作所入社 コンピュータ研究開発
- 1984年 米国カーネギー・メロン大学客員研究員
- 1996年 日立アメリカ情報技術研究所 所長
- 2013年 東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員
- 2013年 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授
東日本大震災復興支援
大槌町にて2年間水産分野の復興支援
- その他 国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢社会研究領域アドバイザー、など歴任
- 2014年 大槌で(株)ひょうたん島居酒屋設立
代表取締役 現在に至る 家族(妻・一男・三女)

家子和男会長挨拶

この度、しんたに洋一後援会長に就任致しました家子和夫でございます。後援会設立に当たり、新谷氏の人柄に触れた一端を紹介しながら就任のご挨拶といたします。

新谷氏は、東日本大震災からの復興支援の関係で大槌町と東大が協定を結んだ時のメンバーで、被災地の水産物を活かした特産品の開発を担い(株)ひょうたん島居酒屋を起業され現在に至っています。主にヤフー店や都市部でのマルシェにて牡蠣の燻製などを販売し、ふるさと納税では、審査員特別賞を受賞しています。

ご案内の通りですが、新谷氏は、東大卒、工学博士、大手企業日立製作所、アメリカ駐在の他、自ら(株)ひょうたん島居酒屋を経営する民間人で知識、経験、人脈や行動力は大槌町にはこれまでに無い、多彩な経験の持ち主で愚直で大変気さくな人物です。

新谷氏は、近年の大槌町の不祥事や産業の低迷する町を見かねて、これまで大槌町にお世話になった恩返しにと町の再生に人生を賭けて立ち上がりました。

こうした熱意に胸を打たれた私は、新谷氏を何としても皆様に伝えたい思いで会長をお引き受けした次第でございます。